

広報ただみ診療所

朝日診療所
医師 森 冬人



「人生会議」知っていますか？

新緑が映える季節になりました。今年も5月から県内各地の研修医や医学生など若い人たちが只見町の医療を学びに来ていますので、よろしくお願ひいたします。

さて、「人生会議」って知っていますか？「人生会議とは命に関わるような重い病気になったときなどに、どのような医療・ケアを受けたいか事前に話し合っておくことです。元々は「アドバンスド・ケア・プランニング」とちょっとわかりにくい言葉でした。去年「人生会議」という愛称が決まりました。

「まだまだ先の話だしな」「俺は延命治療しないでいいよ」など色々な考えの方がいるかもしれません。「人生会議」で大事な事を3つお伝えします。

- ①自分にとって大切な事は何か？
- ②自分をよく知り、もしものときに方針を決めてほしい人は誰か？
- ③家族や主治医(診療所)と普段から相談をする事

まず、自分の大切な事は何か考える事が重要です。「できるだけ家族と一緒にいたい」「住み慣れた家で過ごしたい」「孫の結婚式に行きたい」「趣味を続けたい」「酒を飲みたい」など何でも構いません。大切にしたい事を家族や医師に理解してもらう事が大事です。

また、重い病気の際は意識が無くなった状態になることも多いです。高齢者であれば認知症のために判断ができなくなる事もあります。もしものとき、あなた自身の考えや大事な事を一番よくわかって方針を考えてくれる人が誰なのか考えてみて下さい。息子・娘・親類でもいいですし、場合によっては親しい友人でもよいです。

「人生会議」は延命する・しないを決める会議ではありません。もしも意識を失ったとき、あなたの大切な事や考えがわかっているならば、難しい決断をする家族や友人の悩み・苦しみも減るでしょう。町内では突然重い病気やけがをした際、診療所で初期対応をすることがほとんどです。もしもの事が気になる際には、診療所の医師に遠慮なく相談してみてください。

地域おこし協力隊として Vol.55

只見町教育振興協力隊
阿部 利浩



「只見高校の魅力化と地域課題解決の架け橋に」

早いもので、こちらに来てから10か月になります。これまで只見高校の留学生募集を中心に活動し、今年度12名の留学生を迎えることができました。山村教育留学制度は、進んでいく町の少子化の流れの中で只見高校を存続させるために始まりました。全国の地方の市町村の高校も、同じ課題を持ち、全国から生徒を集めて高校を存続させる取り組みが進んで、生徒の取合いのようになってきています。留学生が安価な生活費で住むことのできる寮も、公営の塾があることもさして珍しいことではなくなりました。その中で、従来の偏差値一辺倒ではない本質的な学びを高校の中に

実現していくことで、高校を魅力的な場にしようという動きが拡散してきています。地域振興のイベントでの共働、地域の課題解決の活動に参加して、そこで学んだことをSNSなどで表現することで、地域のPRにもなり、担い手としても成長できる、そういった全国の例を参考にしながら、「総合的な探究の時間」を通して只見高校生が地域と関わり合い、体験の中から気付くこと、なぜだろう、こうしたら、という探究の中で地域課題解決の糸口を見出せるような学習の場を、只見高校と一緒に作っていきたいと考えています。